

令和6年度南春日こども園評価

令和5年6月30日をもって社会福祉法人「新樹会」との吸収合併に至って以後、令和6年4月1日から幼保連携こども園へと移行し、令和6年度がスタートした。名称も「社会福祉法人新樹会南春日こども園」とし、定員185名となった。

合併後、改築工事の動きが具体的に動き出し、園庭周辺の民家6棟を購入・更地にし、更地の一角に井戸を掘削した。今年度終了時点においては具体的なスケジュールは示されていないが、来年度中には着工する予定で進んでいる。

そのように環境整備の動きが進む中、本年度の保育内容はほぼ予定通り実践することができた。

ただ、本年度の園児の傾向として保育士との関係を結ぶのが困難な園児が目立つように感じた。具体的には「話を聞く」ことができない状況が数多くの場面で見受けられた。そのため行事では準備時間を多く必要としたり、内容を精選したり、省いたり工夫する必要が出てきた。例年通りの行事を実施するのに苦労した。このことに関しては園児の問題だけではなく保育士のスキルアップも当然関係あるが、研修の時間確保・機会の提供等ができていないことが課題となる。

また、今年3月に隣接の店舗ファミリーマートのオーナーが替わり、従前のように好意的な駐車場の使用ができなくなりつつあり、4月から使用についての協議を重ねてきたが令和6年3月をもって従前のような送迎用の使用ができなくなった。

ここに移転してきたときから駐車場のことは予想できたことではあるか、特にこれからは保護者用の送迎時利用の駐車場拡大に向け対応が必要となる。これからの園児確保に向けての大きな課題となるであろう。

コロナ以降職員の数ギリギリの中で運営となり、本年度も運営上困難をきたしたが。職員の理解・協力で何とか乗り切れた感がする。その点で本園の職員に感謝したい。

来年度以降も、職員の確保・保護者の駐車場の拡大・職員のスキルアップをはじめ取り組まなければならない課題は多くある。さらに改築・増築の対応もあり例年以上に運営には困難な場面が多くなると思われる。